



ジオ通信(第4回)

大地を見る目を磨こう!

～めざせ! 筑波山地域ジオパーク～

大地の楽しみながら学べる「ジオパーク」。「ジオ」は「地球・大地」という意味があり、ジオパークは「大地の公園」ともいわれています。現在つくば市は、周辺市(石岡市、笠間市、桜川市、土浦市、かすみがうら市)とともに、平成28年度の日本ジオパーク認定を目指しています。

申・問 ジオパーク推進室 ④「筑波山地域ジオパーク構想」で検索

筑波山地域のジオ話～筑波山の成り立ち～

筑波山は、マグマ起源の岩石でできていて、見掛けも火山に似ていますが、マグマが地表に噴出してできた火山ではありません。筑波山をつくる斑れい岩と花崗岩は、地下でマグマが固まってできた硬い深成岩です。このため、後にこの岩石が地盤の隆起によって地表付近に現れたとき、周囲の軟らかい堆積岩は侵食され、硬い深成岩の部分がとり残されました。筑波山はこのようにしてできた残丘です。

このように、約7500万～6000万年前の地下でのマグマの活動と、岩石を地下から地表まで

持ち上げた大地の地殻変動、深成岩の侵食に強い性質などが、現在の筑波山をつくる大きな要因となりました。

成り立ちの痕跡は、現代でも筑波山の奇岩群や筑波山梅林の地質と岩石として、身近に観察することができます。



斑れい岩でできた筑波山の奇岩群

花崗岩が観察できる筑波山梅林

①筑波山地域のジオカフェ(筑ジオカフェ)開催中!

日時 毎月第1・3(水)18:30～20:00 場所 BiViつくば2階つくば総合インフォメーションセンター交流サロン ※参加無料、予約不要。簡単なお茶やお菓子が出ます

②筑波山地域ジオパークサポーター募集中!

①②とも、詳細はホームページをご覧ください

海の底の時代(約2.5億～1.5億年前)



出典:ミュージアムパーク茨城県自然博物館(2010)第50回企画展 筑波山ーフナとガマと岩とー

中生代三畳紀～ジュラ紀頃、この一帯は深い海の底でした。そこでは泥や砂などが積み重なって厚い地層ができました。

地下マグマの時代1(約7500万年前)



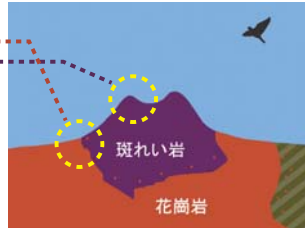
恐竜がいた時代である中生代白亜紀の後期になると、地下の堆積岩層の中にマグマが入り込み、ゆっくりと冷えて斑れい岩ができました。

地下マグマの時代2(約6000万年前)



恐竜が絶滅した後の白亜紀末から新生代古第三紀の初めにかけて、地下に再びマグマが大規模に入り込みました。このマグマはやがて冷えて花崗岩になりました。

隆起と侵食の時代(約5000万年前～現在)



筑波山塊一帯が隆起し始めました。地表では侵食が進み、やがて新生代中頃になると斑れい岩や花崗岩が地表に露出し、後に筑波山になりました。